

## 地球市民としてのウェルビーイングを目指す 子どもたちの環境づくりを支援する「子ども環境部会」の創設と課題

環境福祉学会理事

萩原元昭



「ワタシは0歳のM子です」「ボクは3歳のK男です」「私はさくら園のS先生です」

みんな地球でくらしている地球市民のお仲間どうしです。

今、24億人の地球市民の子どもたち（18歳未満）はどんな環境でくらしているか見てみましょう。

2015年に戦争、紛争の地で生まれた子どもは1600万人以上、EU加盟国に難民として避難を余儀なくされた子どもたちは20万人以上、地球市民の子どもたちの半数が極度の貧困状況下におかれております。洪水の発生する危険な地域で生活している子どもたちは5億人以上、さらに、保健、教育や福祉を損われた子どもたちは2億5000万人以上に達しております。

なお、これまでのくらしの利便性と経済的効率性を過度に求めたパフォーマンスに由来する地球の温暖化、異常気象、山林火災、洪水、海面上昇、放射能汚染、プラスチック、ビニールの過剰生産・消費、マイクロプラスチックの大気・海水汚染などの地球の自然環境の破壊による生命をおびやかす危険で不安な状況下に子どもたちはおかれています。

一方、OECDの28ヶ国の子ども幸福度の調査結果では最低に近い27位。これを裏付けるかのように、いじめ、ひきこもり、不登校や孤立、さらに、発達障害グレーゾーンの子どもの85万人以上という増加傾向など、日本の子どもたちの環境問題も山積していることを示唆しております。

以上のような24億人の地球に市民としての子どもたちの生命や生存に関わる環境問題の改善・変革に、今度創設された「子ども環境部会」がど

のように応えることができるかについて、基本的な3つの課題の検討案を提示いたします。

**第1の課題** 子どもたちどうしが、家庭、園、学校、コミュニティの団体や施設において、SDGsの行動目標やESDを自ら主体的に選択でき、困ったときには脇役としての専門的に質の高い又は、経験豊かな保育者、教師、親、団体・施設のスタッフなどのfacilitator（参画の実現を容易にしてくれる人）としての手助けを可能とするaccommodation type（子どもの参画に便宜をはかるタイプ）の環境づくりの理論的研究開発と実践事例の交流を促進する。

**第2の課題** 国、都道府県、市町村における子ども環境計画の企画、実践、提案などの意思決定の過程にco-learner（共に学びあう仲間）、co-worker（共に、協働して立案、実践する仲間）として、子どもたちを委員として参画させる事例研究の開発・交流を促進する。

**第3の課題** 子どもたちの地球市民としての価値観と行動力を育成することを意図して、24億人の地球市民の子どもたちが切に希望している「戦争・紛争即時中止」の熱望の声が、80億人の全地球市民に届けられるようなアプローチの方法を子ども・若者から公募する。80億人の地球市民から得た同意の意向を世界にアピールすることの運動に子どもたちが参画できる機会を「部会」を通じて検討する。

以上、「子ども環境部会」の3つの基本的な課題について、学会員の皆さまと日本の子どもたちを、co-learner、co-workerとして、今後検討して頂けるようご協力をお願いいたします。